



JIS A 6916
建築用下地調整塗材
2021年改正事項について

日本建築仕上材工業会

JIS A 6916:2021 (建築用下地調整塗材)

→JIS A 6916 が2021年2月22日に改正

(主な改正点項目)

- ・試験用基板(フレキシブル板)
- ・低温安定性試験
- ・軟度変化試験
- ・透水性試験
- ・長さ変化試験
- ・仕上材がセラミックタイルの場合の耐久性試験

3. 用語及び定義

(新設) 3.3 可使時間

塗付けに適する状態を持続している時間として製造者が定めている時間

注釈1 単位は分とする。

・速硬系の製品で、JISマーク表示できなかった製品もJISを表示できるようになる。

- 先の改定で硬化の速い結合材が使用できるようになり、軟度変化試験の経過時間60分を見直すに当り、可使時間を定義。

5. 品質

(追加)

なお、付着強さ、仕上材が複層仕上塗材の場合の耐久性および仕上材がセラミックタイルの場合の耐久性は、試験体3個とも品質を満たさなければならない。

- 先の改定で試験体の個数が5個から3個に変更され、付着強さの評価方法を「5個の平均」から「3個とも」品質を満たす内容に変更されたが、仕上材がセラミックタイルの場合の耐久性は試験体個数は変更されていたが、「平均値」のままとなっていたため、内容を更新。

6. 2 製造

(追加)

主材と混和液などを別々に梱包する場合は、セットされた同一銘柄のものとし、容器詰めする単位は、製造業者が指定する使用時の混合割合に合致する量とする。

- 同一ではない銘柄の組合せが使用されると不具合を生じる恐れがあるため。

7. 3 試験用基板

b) 初期乾燥によるひび割れ抵抗性試験用基盤(下地調整塗材E)

基板は、JIS A 5430に規定する厚さ6mmのフレキシブル板
又はその相当品を300mmx150mmに切断したものとする。

なお、使用するフレキシブル板に付着物がある場合は、取り除いておく。

- JISマーク表示品のフレキシブル板は、現状1製品のみであり、選択の幅が狭められるだけでなく、製造中止となった場合に試験が困難となるため、相当品選択できるように変更。
- フレキシブル板の付着物が試験に影響を与えないように追加。

7.5 試験体の数

(追加)

全ての試験における試験体の数は3個とする。ただし、圧縮強さ試験の試験体数は、曲げ試験後の両切片の6個とする。

- 7.12の圧縮強さ試験の数が異なっていたため追加。

7. 6 低温安定性試験

7.6.2 試験の手順

……試験体を $-5 \pm 2^{\circ}\text{C}$ に保った恒温器に18時間入れた後、容器を取り出して一般養生室に6時間静置する。この操作を3回繰り返した後、一般養生室に18時間静置後、容器の上面を開き、試験体を静かにかき混ぜながら塊の有無、……

なお恒温器の中では、試験体に風が直接当たらないようにする。

- 試料が凍っている可能性があるため、更に18時間静置。
- 風が直接当たると試験結果に影響をあたえるおそれがあるため。

7.7 軟度変化試験

7.7.2 試験の手順

旧) ……一般養生室に60分静置した後……



新) ……一般養生室に可使用時間静置した後……

- 新たに可使用時間が定義されたことより、使用するセメントにより適切な硬化時間となるように一律 60分から可使用時間とした。

7.7 軟度変化試験

7.7.2 試験の手順 b)

旧)・・・測定は、同一試験体について2回行いその平均値をミレートを単位とする無名数で表し、初期フロー値 F_0 とする。



新)・・・ただし、測定回数は1回とし、その結果を初期フロー値 F_0 とする。

- 初期フロー測定回数を明確に。

7.7 軟度変化試験

7.7.2 試験の手順 d)

旧) 軟度変化率は、次の式によって算出し、JISZ8401の規則Bによって数値を小数点以下1桁の値に丸め示す。



新) ……ただし、測定回数は1回とし、その結果を初期フロー値 F_0 とする。

- 初期フロー測定回数を明確に。

7.7 軟度変化試験

7.7.2 試験の手順 e)

旧) 以上の操作を2回繰り返す, その数値の平均値を求める。



新) 軟度試験の結果は, a)d)の操作を3個の試験体についてそれぞれ行い, 3個の軟度変化率の平均値をJISZ8401の規則B(四捨五入)によって数値を整数に丸めて示す。

- 試験回数を明確にした。

JIS軟度試験結果の記録表例

試験体数3個(1個を2等分し初期フロー値および可使用時間後フロー値を測定する)

試験体	初期フロー値測定		可使用時間後フロー値測定		軟度変化率(%)	
	測定項目	値	測定項目	値	計算式	結果
1	最大径(mm) R0 ₁	180	最大径(mm) Rt ₁	172	軟度変化率(%) F1 = 100 × (F0 - Ft) / F0	4.2
	最大径と直角方向径(mm) R0 ₂	175	最大径と直角方向径(mm) Rt ₂	168		
	初期フロー値(mm) F0 = (R0 ₁ + R0 ₂) / 2	178	可使用時間後フロー値(mm) Ft = (Rt ₁ + Rt ₂) / 2	170		
2	最大径(mm) R0 ₁	168	最大径(mm) Rt ₁	179	軟度変化率(%) F2 = 100 × (F0 - Ft) / F0	-6.9
	最大径と直角方向径(mm) R0 ₂	165	最大径と直角方向径(mm) Rt ₂	177		
	初期フロー値(mm) F0 = (R0 ₁ + R0 ₂) / 2	167	可使用時間後フロー値(mm) Ft = (Rt ₁ + Rt ₂) / 2	178		
3	最大径(mm) R0 ₁	173	最大径(mm) Rt ₁	174	軟度変化率(%) F3 = 100 × (F0 - Ft) / F0	0.3
	最大径と直角方向径(mm) R0 ₂	171	最大径と直角方向径(mm) Rt ₂	169		
	初期フロー値(mm) F0 = (R0 ₁ + R0 ₂) / 2	172	可使用時間後フロー値(mm) Ft = (Rt ₁ + Rt ₂) / 2	172		
JIS A 6916:2021における軟度変化の品質規定 -20~20%					軟度変化(%) F = (F1 + F2 + F3) / 3	-0.8

7. 13 付着強さ試験

7.13.1 試験体

旧)なお、浸水後の付着強さ試験用いる試験体の4側面は、養生終了3日前に図6に示すように……



新)また、浸水後の付着強さ試験用いる試験体の4側面は、養生終了3日前に試験室又は一般養生室で図6に示すように……

- 作業場所を明確にした。

7. 14 吸水試験

7.14.2 試験の手順

旧)・・・質量は、それぞれ0.01gの精度で測定する。・・・



新)・・・質量は、それぞれ0.01gの桁まで測定する。・・・

- 適切な表現に修正した。

7. 15 透水試験

7.15.2 試験の手順

(追加)

なお、シリコーン系シーリング材で止め付ける部分には、シリコーン樹脂系、エポキシ樹脂系などのプライマーを塗り付けてもよい。

- 試験体への試験器具取り付けが困難である場合の対処方法を注記していたが、その内容が実行困難であったため記載を削除した。
- 注記内容の一部が推奨事項であったため、本文に移した。

7. 16 長さ変化試験

7.16.1 試験体

(追加)

… に規定する型枠(40mm × 40mm × 60mm) JISR5201の10.4.4(成形) 又はJISA1171の7.2.4(供試体の成形及び養生)の方法によって詰め, …

- 粘性の高い材料はJISR5201のテーブルバイブレーターによる方法では成形が困難であることからJISA1171の手詰めによる方法を追加。

7. 18 仕上材がセラミックタイルの場合の 耐久性試験

7.18.2 試験の手順

旧)・・・付着強さ σ_a (N/mm²)は、次の式によって算出し、その平均値をJISZ8401の規則Bによって小数点以下1桁の値に丸めて示す。

新)・・・付着強さ σ_a (N/mm²)は、次の式によって算出し、**数値は**JISZ8401の規則B(四捨五入)によって小数点以下1桁の値に丸めて示す。

- **試験結果の評価方法を3個の「平均値」からが「3個とも品質を満たすこと」とした。**

9 表示

j) 注意事項

(削除)

1) 主材と混和液などが別々に梱包されている場合は、セットされた同一銘柄のものを使用する

2) 保管条件

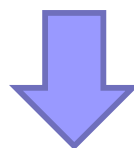
- **注意事項の記載内容を限定しないこととした。**

附属書 A(規定)

タイル張付け用モルタルの試験方法

A. 2. 2 試験室及び養生室の状態

旧) 試験室の状態は、温度 $20 \pm 15^{\circ}\text{C}$ 、湿度 $(65 \pm 20)\%$ とし、...



新) 試験室の状態は、温度 $(20 \pm 5)^{\circ}\text{C}$ 、湿度 $(65 \pm 20)\%$ と、...

- 試験室の温度範囲を本文と同じ範囲とした。

JIS A 6916:2021 の主な改正点一覧

- 1, 2014年改正時の原料(超速硬セメント等)の追加に伴う, 試験方法の見直し。
- 2, 試験の期間, 測定回数の変更, 試験の用いる基材の変更, 試験体の個数など品質に影響を及ぼさない範囲での見直し。
- 3, 規格の様式は, JIS Z 8301 (規格表の様式及び作成方法) 2019 に準拠した。